東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター

灰色の渋沢栄一銅像について

渋沢栄一の銅像の色はもともとは左写真のように黒っぽいブロンズ色でした。

ハトの糞などで汚れ、痛みもあるため、平成 14 年 10 月に保護のための塗装工事が発注されました。当時、酸性雨の影響を受けにくく、汚れがつきにくい塗料を選んだ筈ですが、覆いを外したときその白さに関係者は驚いたそうです。仕様書を見せていただきましたが、3 層に保護膜が塗り重ねられ、最上層は汚れの付きにくいフッ素系の保護膜が塗られています。色については、細かい指定はなく、灰色としか書いてありません。像の周りにはドバトが舞い、時に、はげたおつむに止まっていたりするので、塗装職人の判断で鳩の糞が目立たないようにしたようです。

【平成 25 年の引越しと本院碑建設】

平成 25 年 6 月開院に向けて、新施設が建設されました。敷地内の銅像は、東側に約 45m 移動されました。南向きだったのが、新施設を見守るように西向きに設計図が描かれました。設計図を描く人は図面の上でチョイト動かせばよいのですが、施行する人は大変です。

銅像を外して再塗装して元のブロンズ色にすることも検討されましたが、銅像本体の破損が予測されるため断念し、洗浄のみが行われました。

台座は削岩機で丁寧に解体、パーツ毎に移送、再構築されました。台座の高さは、昭和 57 年の移送時、底の部分を地下に埋め、約 30ｃｍ低くされた。このため、銅像制作者の意図よりも足が短く見え、創建時の高さに戻すことも検討されました。しかし、親しみを感じる低い高さのままに落ちつきました。

銅像の方向のことですが、大正14年、創建時、現在の中学校敷地では大山の通り方向の南に向いていました。戦時中は、台座から降ろされて、ボイラー室の横で金属供出を待っていたようです。昭和32年に、三角地で修復された後は、西向きに変えられました。そして、昭和57年に道路を渡って引っ越しをした後は、また、南向きになりました。

今回再び西向きになりました。新病院をにらむように西向きに、道路からも見えるようにやや斜めに構えています。西方浄土をにらんでいるわけではありません。

そして、養育院本院碑と、徳川家斉墓前の石灯籠が、一枚の写真の中に収まるようになったのです。
(稲松)